

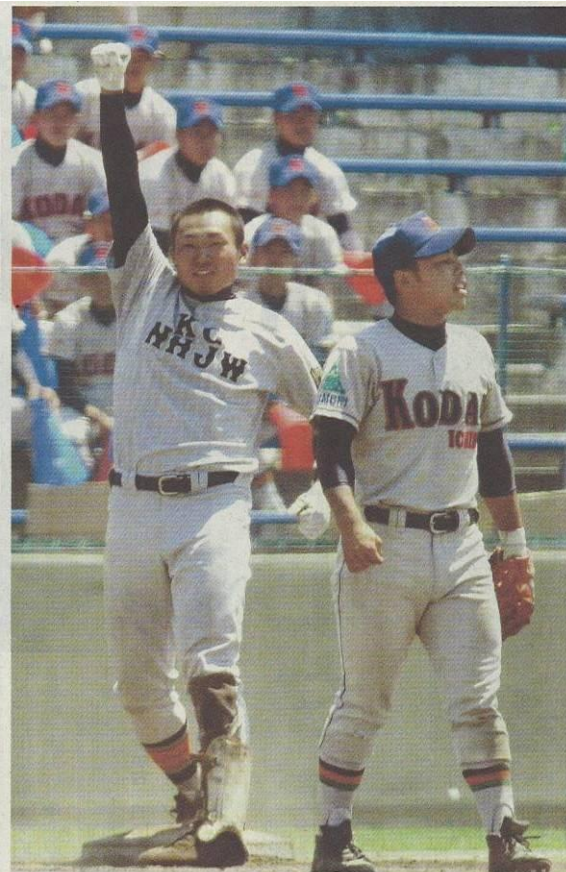
# 野西 着実に加点

## 39四死球 暴投 工大一、投手陣乱調

### 4回戦

工大一 1000110040  
野辺地西 023003002X  
107

(工) 森川、古川、上平、紫田  
(野) 小林大誠、林  
▽三塁打 赤沼、川田(野)▽二塁打 梶中2(工)  
相内(野)▽暴投 森川、古川2(工) 小林大誠(野)  
▽ボク 小林大誠(野)  
▽試合時間 3時間6分  
(球審) 最上、壘審) 土藤、松田、藤本



【評】野辺地西が、工大一で力尽きた。

投手陣の制球の乱れを突き、打撃戦を制した。六回には二四球と工藤翔の左前打で迎えた二死満塁、赤沼が右中間に走者一掃の三塁打を放ち、8-3と突き放した。

3人が継投した工大一は投手陣が9四死球、3暴投と踏ん張れなかった。八回、代打鳥山の内野安打から5連打で1点差まで追いつけたが、その裏の2失点は、試合のない2日間、走

工大一・古川慎也投手(5失点を喫し)六回に相手の4番に直球で攻めたが、力負けしてしまった。守り切れなかった責任を感じるが、思い切り投げることができ、仲間の粘り強さも感じた。悔いはない。

好機逃さず

○：弘前美との3回戦で拙攻を繰り返した野辺地西は、試合のない2日間、走者が出てからの打撃練習を徹底した。この日の試合ではその成果を発揮し、工大一投手陣の乱れを着実に得点に結び付けた。林雄太主将は「皆チャンスで打てるようになった」と成長の手柄を感じた様子。

前のめりになっていた打撃フォームを、膝を使い重心を低くして打つように修正した赤沼拓朗。試合を決定づける六回の3点適時打を含め3安打4打点の活躍を見せ、「感覚もよくなっ、ぼっちの出来た」と声を弾ませた。

【工大一野辺地西】6回野辺地西2死満塁、赤沼拓朗が右中間に走者一掃の適時三塁打を放ち、8-3と突き放しガッツポーズ。弘前市営